



NPO法人災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

災害救助犬の認定基準統一に関する見解

統一基準策定に向けてのベースは人命救助に向けた具体的な行動で示す必要があります。

同一組織での認定審査会の開催について、犬に関わる見解は人によってさまざまで、特に訓練方法や、目指す作業精度は災害救助犬の育成者それぞれに少しずつ異なります。審査会は組織が活動するための一定基準であり、会員の訓練指針となっている点はメリットと考えています。

一方、デメリットについては、災害救助犬についての見解が似通っている育成者同士で組織が構成されれば、運営の在り方が偏った方向性を持ち、本来の目的、目標を見失いかねないこととなります。そのためには、謙虚に広く意見を聞き、災害救助犬についてのあらゆる情報の受信、発信に積極的に努めることが必要だと思っています。

そのうえで大きな目標としての認定審査の統一基準作りに関して、私たちは統一基準に向けてあらゆる手段、方法を否定するものではありません。各団体が統一基準の必要性を認め、寛容さで歩み寄りが必要であり、災害現場で活動することを考えれば、まずは協力体制と認定について何かしらの合意事項を決めるための話し合い、交流の場を作れるように提案します。

しかし、実現するためには行動が伴わなければならない、常にその目標を共有し続け、寛容な姿勢で交流、あらゆる機会に協力をする柔軟な姿勢も必要と感じます。

私たち NPO 法人災害救助犬ネットワークの認定犬のレベルについては、すべてが災害現場で必ず活動成果をあげられるとは考えていませんが、認定している犬については派遣できるレベルに達しているとは思いますが。その根拠、特性として、作業意欲と自主性に重点をおいて審査されていることと捜索シミュレーションの場所を特定しない審査とそれに合わせる日常訓練で、より実践的な活動ができる災害救助犬の育成できていると思っています。

また、その能力維持の方策は、犬に要求する作業が一定レベルに達したとしても、それを維持するために日常的な訓練は必要です。訓練会を年数回開催して、認定犬は参加を義務づけるなど日常訓練と併せて、組織として作業能力がチェックできるようにしています。認定審査会で合格した犬に一定の認定期間を設けていることで犬の能力維持とともに、会員の育成意欲向上につながるように努めています。現場で活動できる能力については、認定犬すべてが平均的に持ち合わせているとは考えてはいませんが、それは認定審査会の合格基準のポイントとして、意欲的、能動的、かつ持続性のある作業か、性格的な問題点はないか、服従性は高いか、告知動作の確実性、指導手と犬の関係性などを総合的に判断しつつ、まだ充分とは云えないながら、素晴らしい素質を持ち、その将来性を見込まれているペアもあり、どのような現場なのかを考えたらうえて、出動犬を選択すれば、十分に結果を期待できる認定犬たちだと考えていますが、自画自賛では客観性は保てません。また犬だけで作業するわけではありません。

依ってこれらの視点で統一審査が開催できることが望ましいのではないかと考えています。広報、防災訓練での認定とは区別し、実働想定認定が統一的に行われるように提案しています。そこには指導手が実践に適応できる能力審査も重要であると考えています。併せて、組織としての出動能力ではあらゆる地域の災害地に派遣できる体制整備も必要であります。

すべて道半ばで、実働、人命救助の視点で議論できる機会を提案しています。

NPO 法人災害救助犬ネットワークの認定審査、訓練育成、出動部が連携して、育成者に対して、訓練に取り組んだ時からを出発点と捉え、基礎、日常訓練の重要性、必要性を伝えながら、実働へ向けた終わりのない訓練をしていくつもりです。